うちまふい物語

七

へ 12
4108
7

4108
7

4108
15-17

夏之部

4108
7

佐藤藏書之章

4108
15-7

宇治拾遺物語卷第七目録

一 五色の鹿の事
二 播磨守為家の侍多事
三 三条中納言水級の事
四 検非違使忠明事
五 石谷寺奈義男頼利生事
六 小野宮大臣食事 付 西宮殿冨小路大臣食事
大臣食事

佐藤藏書

七 式成源滿則 負おほせ三人被滝口弓藝事

あまをもしらず。天ちく母ものあまをあまをまうして。船の乃
いろいろのきたつ一あつまりきたり。深山のよりみてみ
人のよりまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを
ありけるまのをまをまをまをまをまをまをまをまを大きなる川あ
ある時おの乃川より男一人あらはれまをまをまをまをまをまを
まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを
まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを
まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを
まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを
まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを
まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを
まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを
まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを
まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを
まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを

さてこの乃のよ我ありといふことをゆめ〳〵人よかるな
かくらばこれ乃世のあるあり人こりはてゝ
とうんとして命もとまるつきあんごの乃ゝ銀ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃

こ乃りせきあんへさ志ゝ
あをとすふかゝもてあま
しゝ志をあ者てあさ耳
ろきぬゝゝをつぎて
人をゝぐしてゝ乃山
とし志ゆま志てあぐゝ
ゝくあくくさるぬゝ
ゝとんあゆゝんゝふゝよ
大ゝの行やうゝせき
ゝゝめて風うあゝゝ
ゝ人へゝも矢ゝをゝ

ゝ毛ゝ乃毛ゝ
ゝゝ乃山ゝよ
いゝゆゝしゝくゝ
大ゝの志ゝこの
ゝを志ゝゝ
ゝあゝよゝ
ゝをゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝ

よ あんぢのあるあがうまて死あんとせしこまうとぐい
のち とくうずわうきこまるとて せいもをまこまを
あんぢのぎるもなくくろうべあこいはあがくもやと
あくうくうんをまるこまをきうて滅をとられてれ
くぐれをきうよ大国おかくるまぐ鉄るぐての海
きくあんぢハちく生るれもこれをもてへを国
をうくぐ乃男ハうくまの物をるとて見を見出れろ。
ちくまとうへあぐしこ見い鉄しるをもて人倫とすと
くこのあとを鉄さてへく廉乃をるあこまてらべ
をきくせくぐ流のの行えくくをまのちる乃中ま
るせき鉄物ることるまぐまるせんい鉄うむまて

鹿乃一郎とてもあるものあり。いとみ国うけ給さ
いよをとこあるべしとて。うけぬうれしちうり
天下安堵なんよ。ゆうあるとそで
今えむりしたるとまれもる為家とゝうんあり。うれか
内よさせ家おとをなきはあり。あざれさとこゑん
つれまる城御乃名をばうぞけうもうざい
をとさくさごとのそこびそるさくゆる事ふをを
きどもまゆんよ法うれくとはよりにそれで。
あ屋し乃郡の国あうれどをゆそれでうそび
くうれ郡よ行くく郡司乃りくけ家どうよりう。
あをくべきりの法あとつれさくしてゆ自だう

あるとて乃ぞりぬで乃郡司ぶりとに京うるとうる通
くくよをあされくはくうとをる女房はあう者ある
いとおうりあるとくまぶきてこのねえ世用とつれられ
ぐさ屋うれまれとうけくくたまれはあられるもの
見おれくをきをけるはこのさくよ後右う
つふ屋う郡司う家よ京乃あ用といふもの乃かこう
うく繁あうきうさうはをかくしをへて駒うも
ふう郡をくてをきてさうはうとあうをを通え。
祢うきまとう風世男ありこにあるくく附ていて
をてよておくうふのくはまありといいきれ
う乃おそう海くあさうくはきるをもの作くを

屋ぐしてくるれば、あるこうのさうもんしりうんとうせ行
せるこうんとこそ思ひ行へしとつゝえおもひそびい
たるそしいうと思ひたる様いとはやしてとくゐてこの
女房のうきんとうれけつまさて二三日ばかりあり
て高家のさうさうせべき事ありとのさあらんしを
さうさうしけりてまいりてはいしありいと清げなる
まうこんとうれまいはいとくゐさうしけりてあるこせん
よりのかり来るそとくいまかとうれなれえまつこれ
くるとこるとけりけりけるまくにをくれまとも
いつこぞとこるまこれどもうこんうてるたうと
かうんかどをたそこやあるべき法師ざうあどにせん屋うよ

まうせうり来る水干あり屋ぐしてけるこうり
びくやくこうる紙切りをりうくこるのぎあってるこう
屋りうよまきりかこうびぬれくかこせうとうれれ
たかどもあくひをうへしくるまきいべ絶ぬえせ
ますこまくうぎまとくぬれくをこせうるを人
屋とあらくあるうるあうこうあってうるてみうに
かこうびきぬこてみうりくるは紙りくを文をうれ
ほこ法びりまとにしまこれつきてあるぎ屋ってる
ありこまりあるあるこしまとくこうるげうこれはかく
つまこうるる

日れの所えを竹りをやにあこぬとこも

さるうちにうを捨ぬぎかうの風
とかきこゆる袋にてあくれるありとゆきつんもと
こてくるまくに大よとこゆる袋にて
目はたふまてゆる女人の肌ゆこゆびぬいよりれ
ぎりこゆるぞうぞうもくゆるそこゆをはんてゆ女をみ
はきをもてさこのとこそいふ女きこゆあをゆも
かゆもいき家ゆ愛くゆりよをまてこそもゆ経乃年月
はまてこゆゆさねあぞ見女うさこうといふ女きこを
うあれ女人よこの者くそさんといれくゆにあこ阪
ゆさ阪をさ人あゆせんをんとのるれろれ歌
女ぞういこのもかゆくゆこそ立

ちらして郡司殿さ人乃りていくあ遣ゆて事ゆ
あそをんとゆれ女遣ゆ郡司こうゆ肌きゆ人をあ
されをこをさてゆれとくゆ殿そゆはん菊かゆふに
こそあ面れとゆれ女遣ゆかゆ女ゆこゆ袋ゆう見
ゆくゆきりかく腹ゆ志ゆりて腹乃かりてこゆ
ひゆて殿ゆあゆ袋ゆとそあ遣ゆをかゆかく女
くさゆゆ女ゆあゆうゆいそ遣ゆゆるかうの殿ゆに
さこゆこそゆ世ゆの女ゆさこゆふ女きゆ人やん
とゆさく腹ゆ腹ゆて腹ゆ肌ゆ人ゆ人ゆあゆこゆ
ゆりゆて見ゆ肌ゆ事ゆをゆれゆくかくゆいふゆと
ゆ人ゆきゆう行ゆよゆさんゆゆ事ゆゆれゆあゆ

如ゝ安倍ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

くゝ之を望ぐ給ひ
たるゝ事もあり給ふ
あるゝ事さてこれ一人さ
もてこれをいそまを
さつるを見てこれ
と流れ物の着れ
さをてさつる
よもつき手紙
をうてあ
かつるを
れまのわ

作大なる紙乃授よ紙のうつをあてをもをのりてこい
ゆをそうゝ食輪をと活るめれたうゝ出物をこれつゝ
御ゝ目をうとあをてををこ入をこいしせ
うゝ殿意をゝ知きをせ行てゝあきうせ行へるよ
さをゝうとたまかをてうゝ殿乃活よよたるかれきうか
とうをゆゝ者ゝうはあゝぬをゝあるべゝうゝとをきう
手ゝうれきうてゝ知をゝうまつるをぬ沢よあ殿をと二をを
をゝうをとに食沢ゝうゝ知ゝ殿をゝうかよゝうぬ沢に
水殿をゝ引ゝをせゝゝてゝびをゝうきゝ殿まゝてゝうゝ
とゝうる殿ゝよゝかゝのゝこれゝをせぬゝとをてゝを行をに
こゝを殿ゝよれをゝをゝの地をゝ殿ゝ出ゝをゝ入をゝを

さいるとまぎれでおまぶ紙をかくことす
るとおのちやうにめさぐ文よはふるとふをるべさ
よあらばとてまぎれいつよまるとされくつよく相撲ふ
どの角うつてうおそうてまふ
おまをもかんしうさぐあきらとつよ撿地使あう
きるとうれうまるあわきるとき法水のとよ
うく京臺アこもといさうしんとうきうく京臺とうくもぐ
まあ紙ぬきてくめぐあきうとまとちあて出法さんと
しまを忠ゆもたあ紙稼く出堂法よのぐるに
法堂乃東の法まうもあまくこうくしうにあるれ
ぐ内へ迎うくまとうのとく紙勝みもうんておれ仕

八かぐうとれのまとみ風よまつぶりまて茶乃うくい
れわふ角うよやまとう海ふまれまるまとまを
ういよきうぐ京寺ア法紙をあうしてあ法
しかりまうまてえまし出もまくきうふて
角こにきうまとなん
今えしうしぐ文ゆもまうをるくぶまもあくて
まうて一人あるまで法あうまりまぶきかくもあうを
まうまの紙まをまとまを紙くて長谷ゆさいうとて
西あまうう法あうしくけくやけるあうぐ仕せうかくてある
角くハ角うてあの法まう入りてれぐあまうまんを
又をのづうまけるぐ法もあうぐくぶうあうふ義を

ん[illegible]ぎりへ出あるまゝそう法ゞ[illegible]
[illegible]を[illegible]僧[illegible]
[illegible]
[illegible]

法師まづ手うちかけ給ふ。かきこのうらなる
こしあくらんもはのまぶらかれたるを
もくべとりつゝ拾ひ、二もちにてきこりをとこの俗
拾ひてあるうやあるらんとぶとをとろかるゝ思ひてとも
ひとをみたりしかとも俗あるうあくんとおもくおもひ俗は
まさくりかとて蜻一のかたきてかの
めぐりにある俗うるさをれで木乃へをぶ俗ありて
をこしたるまでもれくるかのうるさくふ
きこれでとくくもちうてはきて
つゝて俗乃さをかつきくもちをれで勝をとくら
まくかくへをいでふめきをるに俗長者に

さつるを者る女車乃まへのをとれとうらをつきてかくる
ちごのいとゝ俗くをけるうあれ男人をちくるを
いかゝのよぶあまをこれくをれをとゝ馬よりるとてる
母あるさをくこれよいれあまをいかゝ乃俗をの拾くる俗
をれきかん乃めすてまつりせをきをれもれ者をのをば
くあを拾つよくとかく俗をくをくをくをくをくとてをう
せををうををれをこのおをくをいとあをれをるる男あり。
をうをきみ乃めをををの者ををくまつりをくをくをうをまを
いかくを柄をれこれのどうをくゝんををべとをををこいとかう
ををきををを俗ををををくをくをくをををををわをれ俗
をををををを

ぬるまでもとゝのへてゆきまでかくしたうちか
ぶるまくあるくだりよゆへあるこゝ乃ゆへてさらるまで
こゝ乃ゆへあるとあまりてかちくるまでさらふる女房乃
あゆへんさうじてくゆへ生てりにくもうあるかなどの
うえをべ水乃ませてきし人屋うにはれぶくも乃
人へはぶくれたちかくるやあるまでこゝつて
さこゝるきとゝとゝ山ゆへどゝもあしおいぐどんずる
ゆえくこゝるうやとゝあるとくいたくるうにたくゆへ
まとゝてんてゝたくくしきさゆまこゝあうゝいとゝて
さえゝまでまこゝくこゝあゝうをこゝてゝのどかこゝきくく
さくくゝゝまこゝんあゝまこゝまこゝまこゝらゝて

こゝ乃ゆへあるとゝのこゝ乃ゆへあるこゝ乃ゆへ
をこゝちかくゝ水乃きゝよゝ乃ゆへこゝらやあるこゝこゝれまれこゝ乃
ゝ乃町ゝこゝちゝはきゝこゝまゝゝゝきゝゝゝ

まくれたるこのこゝろをいとせ行つまゝべのうりとめいつまゝで
を清きくれいたくさぐりたるゝもとくたいの男共をのを
ぬぎうの内をえ〳〵くこのかくしをとをそうそうつまゝ
えまいつせをとるあいりといのよ公女我をさはのどかし
きてくれいつうをうるにてをれのかまをせよ
とついつるをうるいかゞゆまをとうれたのあとい法ゆ
かかくをを公相よへをくさぐ法ゆ〳〵公相を中うして
きしうるとあまゝしうまをうとけるの男の風うの所とを
いまゝあるとうとへをかつをふいとゆうの男をゞ
しあまをとつへいうをかんをとありそもくを入をてを
いういあくをてをとあうゝ男をうまをゝとかをの

たゞうをとををまをかゝ法ゆををんするゞうひを
いをうをて法ゆうををををて為まをとつへゞあの男
をつをゞゝへをををををををるなををいうをををゝ法ゆを食
をくまうまをとつへをゝをるるゞををををををゝ
るうをゞるゞをををををゝをゞかくをるかをを
まをくいをつるゞ法をををゝ馬をゞを法ゆをををゝ
ゝををまをれをとをのまをゞをあるをうくをうゝ法ゆゝ
ようををををあをつをゝくゞををををををゝをゝをゝ
ををゝをれををうんあまゝをゝををを法ゆをれゞゆし
ゆをををををををををををゝをゞをゞをゞをゞ
ゝをゝをゝををまをををゝをゝをゝをゝをゝをゝ

ぎてよりてくるせうとの物をつくりあつらへる物をの
よかあんもどりん祝をそらせ法をいはまし
よをもあつくてもあまりとおもひぬるあつかひ
くるし紙布をこしらへるとてこまあれ男にそう
をとよび物をの物をいつくしみをもてこまをれど
をもつふ物をそらせていうまりとおつかひ白乃
事いつくもんをまこの世でのをそめをとんすう
命わ京乃かたへ海どうをくにあんかるもと
さのまこの物をの物をうこれをいをんもをうとつれて物の
こをもこをせをれどうをこうこをこをうこをこをこ
一をもつふ布をこをこ京をぬるるをとをうををこをき

うをくまかるがとにうの月かをれは布かをつくあ
人の家をとをはうをおをぬまハををこをもにかき
をくりをどをは月をこをあるををををををの人をのる後愛
ををををいをををををを

よもてこまどすべきかとあくてあやしのるれある
にのりぬがくてたつよあるとそもそもどきやうもあり
我をいまんさまこともかくもしてもきかくせうて
下もおとものを一人へうぐんくいぬきこの男え
くぶたりぐしまよあるんとて死ぬるよてあん
めまどうとう一せちう柄よこよあるぬ柄よこいう
布一こむしうよなりそるとぶぬ乃馬よなるべきれ
のうとと思くおゆこうるとて武下もて男よいやう
こいいう あうと法るるうどとそれきれどうちのくにな
かとうさせ法へるるあうよるうぶ乃人のかりるとてあく
いもりぎうに買んとやへる城もかりうてたうち法う

もうくけのうこぬまこびうのあうこいかが分城もうこ女法
もうどひうぬをとのれもはをうまううどやうと思へと
徳りんてこいうくすべきとかりんくまるうと立て法
ありといんきまこびうれ事ありいうこ死法るれと見ゆり
法ありようるれくかうもぬるあと為ある拙いあこ海
しきうとあうりまこをてこそびりて法ぬうう死法うう
平も平きりり法こまうどうのまこハてのまこよ法まこハ
かうこもれうこ法りれ法へんをうこかうこぬと武
布一むりうこうせうくかれんうこ男ぬもうこするる高得
こうりとうくかりいうこうこうとやいかりうんあうこと
あまうこれうこうこうもうこうこいぬ男ようくあり

そこにねはんきあるこうせ乃はこうよりもれ
てくるい乃馬をいきて行きたんと会しかるなど
よこれる自然見あくるまたれとまさて
おきんとこ市をこ乃屋さてしかるしぬう
きつ先ぬをかぎりあるまてくるこもてある
きこあるとこる男ともてるなとあやうくかぐく
きれをなうくかくれ乃てよ引入をこうこる海
くなをめてをこの屋うよ屋ちもあるこをれい人乃
をこに引をてゆをてこれ布一ひして書なあや
乃鞍より一くく馬よれるとぬ京さ海よのなるなどに海
海りまてはくをこよ書こかれよ人乃をこに書を

くをこ一ひくく乃布をて馬乃ものとう食ねるどこにて
こう乃夜いをまるとてこをとめていとどく京さまにのるを
きれをこ九条をこわなこう人乃氣よ物へいんどるやう
をてをちこをこぐ屋ありおのる京よかてゆをこう
んよがん出うをる人あるてぬをんをる氣といをれん
をこうこのやをこをこ出うるとこをやとをこかやう
れをこをよ馬ものこ用ひる物をてかくをこてをこ
くをこ屋ものやかをせのをこをれをこいるこるを海
かをこよれる船をていくぎをんこをこれをくぬぐをかこう
きねるこいなきこをこ乃る頭の田や来るどこはか人
をんやをこれをこ出くきねをこいを一乃書也

とゝ[illegible]くきあぬや濡あるとして用ゐは作ものれが猿
あるべき田あるゝとも何まうそんもそもとゝ[illegible]のれと
馬は用あるべくハ世ぐ作はよてきてうえめせ
いへいこゝろるものをもゝ[illegible]ゝせあぐしてゝあぐ[illegible]れ
清[illegible]あるうとゝれくおゝるのちゝきゝ田と町
稲[illegible]きゝ来ぬぐくらせて[illegible]てゝ[illegible]れをあづを
くゝとゝゝ[illegible]きゝ命あるゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
ゝきゝゝゝ

をもどりてあるうに春まさぐうの乃ものをうばうものよりて
まご孫るどいで拙らくだと乃わらにさうへくゆりけこ
とう
今ハむりゝ小野文殿乃大人食よ九拿殿乃法贈
拙よ拙ハ拙ハとも者の悔敗来よろへらまくゆりけ
ふ紅乃うちゆるるて分ずを分おうりけるはまへの
元をづゝて屋りは水よ海ゝへくゆりけふ拙をれも
ちうるまあをてうちあるハ春まいくらいさうりて
くを拙よ者りゝそうの乃ぬまをうをるかさの紬乃つの
くよねまくゆるをもみくぐかゝ御ういうち先ん
あとをもあうまけるゝむうゝをてうちうる拙いうふ

あんあうまけるゝ又西文殿乃大食ハ小野文殿を
そうをちよりよりをせよゝとあるまを春まで年老ちつる
ゆくくゝ屋乃ねをまを海ゝをれをうんまうつまゝきを
面あるくハ屋れねをあるまゝ春まいさいるまをん
ゆくまをは西くゆんさいる海ゝ紙を流更乃あるま
をれを面あるへゆきよういんゝくいう行をうの
出るゝをやをきんうう乃白ハあるまてをさをを
あくて文をくうをまてあうくをれいふ野を
殿をまを紙くうれをゝおをくをを中ゝるよ大
ハ末をゆう紙松一年をあてるまをうゝ乃雲紙又をうる
人春乃くうまををくゝ海ゝかゝまをを又流くいれを殿

こ乃大一食乃日ハむ月乃事ゆれとも春乃され
つそ〻ぐ〻おりく〻ゝたりて松乃梢ちとはまふう
のもとら毛出るを耐ゆ〻ぬるものを出さまじ花よ
ゝ毛いそ乃くもつ毛て春乃うゝふるまいそぐく
めて出ゝかうゝを越池乃ほとりよ新乃うつり
く風ゝ乃ゆ出て水のうへを毛ゝたなびきくるまと
そ毛萩波とつふさてとゝこれをとつふやあんそをみ
ゝる波乃白富小路乃かゝ〻ゝ大饗に法ゝ成あや
しくゝゝろくゝ成ゝ乃ゝ見ゝ乃ゝ〻ゝ〻ゝくあるを
きれゝ人〻を見ゝ〻ゝる花大饗ゝ成と思ゝゝゝゝけ
白ゝ毛て事乃ゝ〻ゝゝ毛ゝて〻ゝ〻ゝゝゝ引わ地乃

ゝゝゝよゝゝて東乃廊乃まへよ繁出ふ幕乃
ゝゝに引わ地乃馬を引出くあるけるゝ幕乃
ゝ地ゝゝ〻ゝ〻ゝ〻

さゝあり　ぢきるど乃ちてとゝのゆるところ
なくぢきてくしかつとをもとゝ就乃ちろこれ
れえくくしかつとつきふをもゝくてやぐくゆうか
ひあり市ふさて世のさゝ〳〵すぐ　かうう
ぢくあるなりをきう

佐藤藏所之章

武者とうの乃中ゑ宮道式成源満則貞おと
よ的弓乃上ゑ射ることとうれてきこれまくあう
くゑるがらのかん伝の清水の滝口ゑ人あうく
あうれれこうくあるて大うこ谷をもづされこれを
もてあり奥をゑ世作。或時三尺ゑすの的をもじて
ゑまづ矛二乃とうこ射ゑくて射ゑくさいくれかと
作あり。已時ゑ弱きうりて。ゑ乃ときゑ射ゑくして
まのしれをいこ作きこ人の中ゑとあり。矢ゑう
て矢ゑ乃とうんをまこまかぐんねゑくとて箭乃
軍ゑと矢ゑと変ゑちてゑもくくして立ゑうくい

ゑかとゑ知ゑ乃とゑ乃のあくゑるとに矛二の
くうこ射めくくていとくくして射くさいまこあ
ゑ乃ゑゑゑ

佐藤忠三郎